

連載

20 在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長

橋本 満義 (63歳・内科)

先生来てくれた～ん。
ここが楽しいんよ。



ある日の午後1時ごろ、独居患者さんのお宅へ訪問しました。

その患者さんは脳梗塞で認知症になり1時間前の事はほぼ覚えていないという82歳の男性でした。さらに糖尿病や高血圧の合併症も併発していました。しかし電動車椅子を利用し、ヘルパーさんの協力でちゃんと食事をし誤薬もしないで無事に生活できていました。自宅訪問するため30分前には電話をし、本人の了解を得た上で伺いましたのですが・・・留守でした。こういったことは他の患者さんにもよくあることなのです。

どうやら近所に最近できた送迎付きカラオケ

居酒屋に行っておられるとのこと。そこで、そのお店に行ってみると、その患者さんは楽しそうに食事をしていました。私を見て「先生来てくれた～ん」と言われたのですが、やはり訪問の件は覚えていないようでした。そこには個室があったので一応診療もできました。そして店のオーナーには店の対処法として糖尿病の合併症もあることなどを説明しご理解も得たのです。

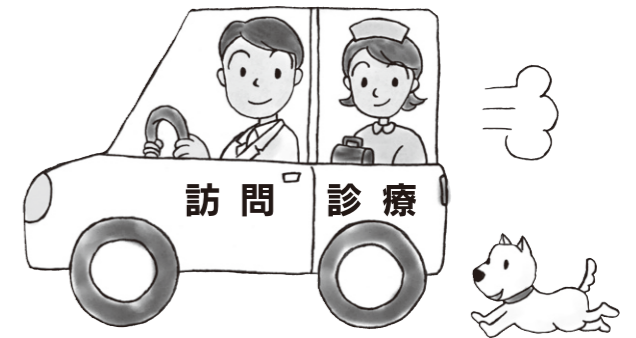
診察も終え帰ろうとすると、カラオケ仲間の皆さんから私にも1曲歌うようすすめられました。断りきれない私は、「まわり道」と「心凍らせて」を歌わせていただきました。その2曲はちょっと自信ありの自称プロ級です。若いころ

毎晩カラオケスナック通いをしていたことがこんなところで役に立つとは当時は思ってもみませんでした。

訪問前には電話して確認しないと、予定外のデイスサービスやショートステイまたはヘルパーさんと外出などで留守にしていることが多々あるのです。

現在の国策は、フォーマルサービス、インフォーマルサービス、クオリティオブライフそしてノーマライゼーションです。いずれにしても患者さんへの自立支援が中心の時代なのです。

「お医者さんが来てくれる」
質の高い在宅医療・看護・介護
を『千舟町クリニック』は目指しています。



機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

<http://www.touzaikai.jp/>